

漁港・漁場・海岸の施設の設計にかかる相談事例

分類項目	増殖場関係
相談タイトル	地域の特性を生かした藻場礁の造成について
相談者	島根県
相談内容	<p>漁業者からアワビ類（クロアワビ・メガイアワビ）やサザエを対象とした増殖場整備が強く求められている。増殖場整備予定箇所は、元来アラム類やホンダワラ類が繁茂していたが、近年、多年生のアラム類の減少等により、アワビやサザエの漁獲量が減少してきている。藻場の喪失原因としては、食害や波浪による基質の反転や海藻の流出、砂による研磨が考えられるが、サイドスキャンソナーを用いた海底地形調査や潜水調査、漁業者とのヒアリングを行った結果、当該箇所においては、いずれについても喪失原因とする十分な判断材料がない状態である。藻場造成施設の計画や設計について、地域の特性を生かした構造としたいため、相談したい。なお、島根県における藻場礁の整備計画は当該箇所が一例目である。</p>
相談会の結果（WEB 協議：令和 6 年 8 月 29 日実施）	<p>水産技術研究所から以下のアドバイスをを行った。</p> <p><u>造成範囲の選定について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 今回提案された整備候補地は漁業利用や維持管理の容易さも考慮して比較的静穏な領域が選定されているが、アラム類の生息には流動が必要であるため、流動が比較的大きい島の両端部に近い方が適する。その点を考慮して、造成地を決めた方が良いと思われる。 ● 藻場礁の整備によってアマモ場が消失することについては、アマモの生育適地は砂面変動の少ない静穏域であるため、アラム類の生育適地とは重ならない。候補地はアマモの疎生域であるため、造成の影響を考慮する必要性は低いのではないかと。 <p><u>藻場の造成構造について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 整備候補地は砂地であるが、アワビ類は付着する基質に砂や付着物があると生息が難しいため、垂直面やオーバーハングのような砂が堆積しにくい形状の藻場礁の設置が望ましい。さらに、造成の主対象とするアラムは水深 5-10m にも分布するものの、5m 以浅のより浅い海域の方が生息に適している。一方で、整備候補地は水深が比較的深いことから、垂直面が多く、藻場礁として高さのある構造とするのが良い。 ● 整備予定地は波の影響があまりない箇所であるために攪乱などは考えなくてもよく、また対象区域では磯焼けは起こっておらず、現状ではウニが増殖する懸念はないことから、造成施設（藻場礁）間を離して設置するメリットはあまりない。一方で、アワビ類は砂地を移動しにくいことを考えると、造成施設間を離した場合にはアワビ類が増殖しにくいと考えられる。このことから、現在アワビ類が分布している候補地近隣の岩礁域を起点として、連続的に造成施設を設置するのが望ましい。

注意) 本資料は設計相談会の事例を示すダイジェスト版です。実際の協議では箇所名や詳細なデータ

を挙げたうえで、より具体的な相談を行っています。